

02. ばりっ子会議から市政への提言プロジェクト

名張市をキレイに！みんなの意見を市長へ提言！

ばりっ子会議は、“自分たちの住む名張市をよりよくしたい！”という思いを持つ小学生たちが中心となって、意見交流やイベントの企画をする活動です。私たちの役割は子どもたちのサポートですが、時にはばりっ子会議の一員として、子どもたちと一緒に考えたり作業をしたりします。なばりんと仲良くなれる機会も・・・？

メンバー数：2名
活動場所：名張市
実施主体：名張市役所 子ども家庭室
担当教員：山本 智子（教育学部）
活動年度：R01, R02, R03, R04, R05, R06



月別活動

5月

自己紹介
ばりっ子会議についての説明
「名張市にあったらいいな」や「こんな事困っています」を発表し共有し合う

6月

提言内容とそのほかの活動内容の話し合い

7月

提言内容の決定
ばりっ子モールの出店するお店の話し合い

8月

提言内容の再確認
ばりっ子モールの各出店メンバーで看板づくり

9月

ばりっ子モールの当番や役割分担と必要なものの準備

10月

ばりっ子モールの最終準備

11月

ばりっ子モール本番



1年の活動まとめ・考察（成果と課題）

私たちは、市長に提言する名張市の公園・通学路・学校がキレイな街になるよう、どのような取り組みを行うのかについて子どもたちとともに話し合い、ばりっ子モールの準備・開催を手伝いました。

主な活動内容は市長に提言する内容を考える活動とこれから行う提言書の作成です。この活動で子どもたちは、「犬のフン」「ポイ捨てされたごみ」「落ち葉」などを挙げ、これらが名張市の公園・通学路・学校からなくなり、キレイな街にするにはどうしたらよいかを話し合いました。その結果、市民の方々に現状を知っていただくため、ポスターを作成することを決めました。まず、夏休みの宿題の一つとして市内の小中学校の子どもたちから「名張市をキレイに」のポスターを募りました。そして、私たちが投票用紙を作成し、ばりっ子モール当日に募ったポスターを掲示し、来ていただいた方々に投票をお願いしました。選ばれたポスターと私たちがこれから作成する提言書を市長に渡し、意見を伝える予定です。

また、11月23日に本番を終えたばりっ子モールについては、出店するお店を考え、決定したお店ごとの役割分担や準備をサポートしました。意見がまとまりづらい時もあったが、一人ひとりの意見を聞いて回ったり、話し合いが円滑に進むように手助けをしました。終盤には、カフェのチームに入りカップケーキ・クッキー・牛汁と一緒に作りました。当日も、カフェのサポートと名張市公認のキャラクターである「なばりん」にならせていただく体験をしました。ばりっ子モールは無事に開催することができ、後日名張市の方々と次年度に向けての振り返りを行う予定です。

活動を通して学んだこと

集まった小学生は学校も学年も様々なので、初めはぎこちなく、緊張しているように見えました。私たちが初めての場でまだ慣れていなかったのですが、途中で話しかけたり、前に立つときにも笑顔でいたりすることを心がけているうちに、自然と全体の雰囲気も柔らかくなっていったように感じます。話し合いの場では子どもたちからの様々な意見や考えに触れ、自分たちにはない発想力に関心すると同時に、それらのアイデアを引き出すことやうまく整理することの難しさを実感しました。それでも、指示や説明が分かりやすく正確に伝わるように、子どもたちが楽しみながら活動できるようにと、自分たちなりに工夫しながらサポートすることができたと思います。

参加してくれた子どもたちや、活動を支援してくださった名張市の方々と一緒に活動するという、新鮮で貴重な経験でした。数回という数少ない活動の中でも、子どもたちが持つ力とエネルギーを十分に感じ、「アイデアを形にする」ということの楽しさや大変さに、改めて気付くことができたように思います。またこの活動を通して、サポートという役割の重要さや、様々な視点から物事を考えることの大切さを学ぶことができました。

実施主体からのコメント

名張市子ども家庭室
ご担当者様

子どもたちが集まり、運営する子ども会議、通称「ばりっ子会議」で子どもたちの思いを形にするため、積極的に活動いただきました。

始めは、会議の進行のサポートに戸惑う様子もありましたが、子どもたちとのコミュニケーションが取れるようになるにつれて、子どもたちの意見の昇華や、自分の思いをうまく出すことができない子どもへのフォローなど、子どもからの意見のとりまとめや全員が意見を出しやすい環境づくりに努めていただきました。

短い期間ではありましたが、子どもたちに寄り添いながら、ともしれば、バラバラな方向を向いてしまいがちな子どもたちを陰日向に支えてもらい、子どもたちからの思いを「市政への提言」としてまとめていただきました。

今後、この経験が活かされることを願っています。

担当教員より

教育学部 山本 智子

最初は、戸惑いもあったことと思います。そのような中、全体の動きを把握して、学生が担えることに積極的に取り組めたと思います。子ども達との関わり、MIK運動さん、名張市さんの主催者側のご苦勞など活動を通じて学んだことを生かして、これから出会う様々な課題にも主体的に、工夫して、取り組んでいくことを願っています。

こんな人におすすめ！

- ・自分の地元に貢献したい人
- ・小学生と関わる機会が欲しい人
- ・市の職員の方々に話を聞いてみたい人



成果物 / 制作物

